

シンポジウム

長期的な学生の学びと成長を評価する — PEPAの理論と実践 —

趣旨

学生が学士課程でどう学び、成長したかに関心のない大学教員はまれでしょう。また、制度的にも、ディプロマ・ポリシー（DP）で掲げた学修成果を、実際に学生が卒業時まで身に付けているかどうかを評価した上で、卒業認定・学位授与を行うことになっています。

ですが、どうすればそれを把握できるのでしょうか。一般的によく用いられているのは、各科目の成績の集約や GPA、カリキュラムマップやレーダーチャートを用いた各学修成果の可視化、学生調査、ジェネリックスキルの標準テストなどです。しかし、質問紙調査のような間接評価では、直接評価を代替できません。また、成績の集約やレーダーチャート化のようなやり方で、学生の学びのリアルな姿や軌跡を把握するのは困難です。

そこで私たちの研究グループで提案し実践してきたのが、「重要科目に埋め込まれたパフォーマンス評価（Pivotal Embedded Performance Assessment: PEPA）」です。PEPA は一言でいえば、学位プログラムの節目に配置された重要科目において、学生の中間的な学習成果を直接評価し、それを系列化することで、学生の学びの（軌跡）を把握するという考え方です。それによって、科目全体の単位認定による学びの〈総和〉の把握を補完しようというわけです。

PEPA は新潟大学歯学部での実践から生まれた考え方ですが、今では、医学部の他、工学系、芸術系の大学などにも広がりを見せています。

本シンポジウムでは、PEPA の理論と実践の最前線をご報告し、参加者のみなさまと今後の課題を議論したいと思います。

登壇者



松下 佳代
京都大学大学院
教育学研究科 教授



小野 和宏
新潟大学大学院
医歯学総合研究科 教授



平山 朋子
藍野大学医療保健学部
理学療法学科 教授



伊藤 通子
東京都市大学
教育開発機構 副機構長



伊野 英男
岡山大学医学部
医療教育センター 教授



河田 学
京都芸術大学
芸術学部 学部長



森 朋子
桐蔭横浜大学 学長

プログラム

14:00 趣旨説明・登壇者紹介

14:10 話題提供 (15分×6)

- ・小野 和宏 「新潟大学歯学部の取組—学生の成長を促すための重要科目のデザインと PEPA の成立—」
- ・平山 朋子 「藍野大学理学療法学科の取組—パフォーマンス評価でつながるカリキュラム—」
- ・伊藤 通子 「東京都市大学の取組—全学必修科目 SD PBL を中心に—」
- ・伊野 英男 「岡山大学医学部の取組—医学部初の PEPA 導入の経験から—」
- ・河田 学 「京都芸術大学の取組—2024 年度新カリキュラム（進級研究・制作）を中心に—」
- ・森 朋子 「桐蔭横浜大学の取組と中教審 WG での議論」

15:40 指定討論

- ・松下 佳代

15:50 ディスカッション

16:25 ラップアップ

司会・モデレーター：斎藤 有吾（新潟大学教育基盤機構 准教授）

日時 2025/10/18 (土) 14:00~16:30 [事前申し込み制・無料]

主催 科学研究費基盤研究(B)「コンピテンシーの形成・評価の検討—統合性・分野固有性・エージェンシーに着目して—」
(23K22236, 研究代表者：京都大学・松下佳代)

形式 オンライン：Zoomミーティング(申込者に後日情報を連絡)

対象 大学教育関係者

申し込み・問い合わせ



10月15日(水)までに以下のwebページ、
または左のQRコードからお申し込み、お問い合わせください。
<https://forms.gle/GNWeYNbinwBAnTM49>